

# 図書館ニュース

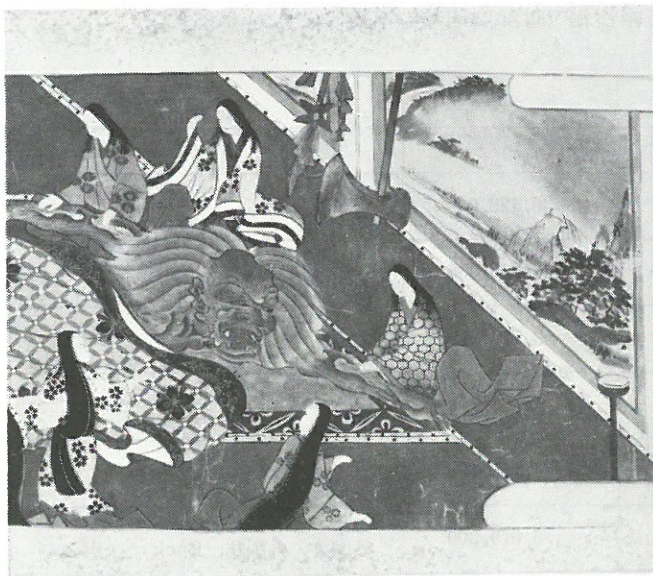
No. 12

1969

44. 9. 20・発行

発行人 中条 博

発行所 東京都文京区白山5丁目28番の20号 東洋大学附属図書館



酒顛童子絵巻 五巻本の内

## 三つの図書館

学 長 磯村 英一

私の一生を通じて、図書館のなかでどれが印象に残っているかを省ると、三つの図書館が浮んでくる。

一つは、中学から高校に行く時代に通った、麻布（現在の港区の一部）の南葵文庫。二つは、関東震災で焼けた東大の旧図書館。そしてもう一つはハーバード大学の訪問教授をしていたときのその大学の図書館である。南葵文庫は旧徳川家の寄付によつて出来たものだが、落付いて勉強ができたところ、あとの二つはいづれも大学図書館。東大のそれは設備よりも、むしろその雰囲気が好きだった。いづれも勉強したいという気持が湧いてくる。ハーバードのそれは雰囲気に加えて、蔵書の多いことでいささか圧倒された印象。書庫のなかで出口がわからなくなつて赤毛布をやつた思出がある。

このように、私の学問形成のなかで図書は極めて大きな役割をもっている。それは無言の教授の集団だということもできる。しかもこれらの思出の図書館は、いづれも大学の建物のシンボルのように設計されている。大学の集会場と図書館、それは大学の機能として、もっとも大切のように思われる。日本には、講堂が大学のシンボルになつてゐるのがあるが、図書館がそののは、ほとんどない。愛する東洋大学の図書館は、そのようなイメージのなかでつくられることを期待する。

# 東洋大学図書館・業務報告 (昭和43年度統計)

昭和43年度の業務実績を御報告いたします。同様の報告は、日本図書館協会、日本私立大学図書館協会、文部省、学長等にあてて提出されており、創立来の歴年統計は、東洋大学編刊「東洋大学八十年」に収録されています。なお、他大学との比較をのぞまれる方は、日本図書館協会編刊「日本の図書館」(年報)を御覧下さい。

## I 図書館業務報告書 (昭和43年度) 本館

第一表 図書資料購入表

費 目	予 算 額	支 出 額	備 考
経 常 費	36,429,300 (1,429,300)	36,422,039	残 7,263
図 書 購 入 費		26,645,036	内国書 9,408,878 外国書 17,236,158
雑 誌 購 入 費		3,715,359	内国 1,170,064 外国 2,545,240
新 聞 購 入 費		228,780	内国 109,240 外国 119,540
その他資料購入費		153,562	マイクロフィルム, テープ
文部省 研究設備助成金		5,679,300	マイクロフィルム 外国書, 外国誌, Back

註：( ) 内は文部省研究設備助成金及び文部省教育研究補助金のための補正額

第二表 増加図書資料表

種別 區別	図 書			雑 誌			新 聞			そ の 他		
	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計	購 入	寄 贈	計
内 国 書	冊 4,408	冊 359	冊 4,767	種 318	種 935	種 1,253	種 7	種 8	種 15	テ ー プ マイク ロ 29 164	0	テ ー プ マイク ロ 29 164
外 国 書	4,412	22	4,434	441	50	491	7	0	7		0	
計	8,820	381	9,201	759	985	1,744	14	8	22	テ ー プ マイク ロ 29 164	0	テ ー プ マイク ロ 29 164

第三表 図書整理冊数表

月	43/4	5	6	7	8	9	10	11	12	44/1	2	3	合 計
冊 数	1,505	857	895	491	325	171	141	964	658	586	835	782	8,210



第四表 マイクロ・エレファクス・ゼロックス業務表

申 込 者 数	収 入 額	支 出 額
4,582	1,546,304	1,209,621

第五表 図書館利用者統計表

種 別 室 別 開館日数 学 部 別	入 館 者 数								館 外 貸 出			
	第一閲覧室		第二閲覧室		参 考 室		雑 誌 室		第一閲覧室		第二閲覧室	
	147		211		229		115		231		(学生) 200	(教職) 209
	入館者 数	1 日 平 均	入館者 数	1 日 平 均	入館者 数	1 日 平 均	入館者 数	1 日 平 均	利用者 数	1 日 平 均	利用者 数	1 日 平 均
文 学 部	14,994	102.0	16,045	76.0	5,916	25.8	3,708	32.2	1,026	4.4	5,607	28.0
経 済 学 部	6,174	42.0	5,289	25.1	1,876	8.2	2,424	21.2	72	0.3	1,094	5.5
経 営 学 部	6,412	43.6	6,633	31.4	1,427	6.2	2,348	20.4	115	0.5	1,421	7.1
社 会 学 部	6,369	43.3	5,575	26.4	2,153	9.4	1,927	16.8	207	0.9	2,312	11.6
法 学 部	8,263	56.2	9,952	472	1,968	8.6	2,600	22.6	107	0.5	1,873	9.4
大 学 院	293	2.0	174	0.8	195	0.9	49	0.4	79	0.3	145	0.7
短 大	3,773	25.7	4,541	21.5	775	3.4	205	1.8	99	0.4	1,839	9.2
教 職 員			17	0.1					562	2.4	458	2.2
そ の 他	75	0.5	3	0.01	66	0.3	97	0.8	6	0.03	102	0.5
合 計	46,353	315.3	48,229	228.6	14,376	62.8	13,358	116.2	2,273	9.8	14,851	74.2

## II. 図書館工学部分館報告書

### I 受入登録数

種 類	細 目	和 書	洋 書	合 計	金 額
図 書	図書費によるもの	1,730 冊	1,031 冊	2,761 冊	8,771,244
	第 1 研究費	527	235	762	
	実験実習費	11	66	77	
	学 科 費	3		3	
	寄 贈	197	1	198	
	雑誌合本	799	1,107	1,906	
	計	3,267	2,440	5,707	
雑 誌	図書費によるもの	160	257	417	4,058,022
	第 1 研究費	31	6	37	
	寄 贈 交 換	83		83	
	計	274	263	537	
パ ッ ク	バック・ナンバー		3	3	148,050
	合 計				12,829,266

### II 蔵書冊数

和 書	25,711
洋 書	17,923
合 計	43,634

### III 印刷製本費

雑誌製本(合本)	1,320,850
印 刷 費	105,075
合 計	1,425,925

### IV 館外貸出冊数

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
学 生	333	1,332	1,288	777	17	246	892	1,025	817	413	240	0	7,380
教職員	49	101	242	80	14	118	101	99	242	300	398	271	2,015
計	382	1,433	1,530	857	31	364	993	1,113	1,059	713	638	271	9,395

### 倉持 博（経済学部）先生蔵書寄贈される

本学経済学部兼任講師であられた、故倉持博先生の蔵書がさる五月七日本学図書館に寄贈されました。内容は、主に統計学に関する参考資料と、研究書及び雑誌年鑑等約一千点あまりで、先生が生前の意志で御遺族に言いのこされたものであります。

図書館としては、御意志を生かすべく鋭意整理中であります。

### 学部別購入図書速報のおしらせ

図書館では到着した本を月別・学部別にリストにまとめ「学部別購入図書速報」（受入時）として出す事に成りました。御利用下さい。

## 貴重書から

酒頭童子伝説が、文学史上にあらわれたのは、室町時代の謡曲「大江山」と、それと成立年代が相前後するお伽草子の「酒呑童子」とである。

前者は主としてわが中世の武士階級の為に、後者は中世貴族の婦女子の為に作られた関係上、叙述の面に相違はあるけれども、ほぼ同時代の所産として内容的には共通点が多く、英雄伝説物語として、以後多くの享受者をもち続け、近世以後には童話の素材にもなって、児童の間にも共感を呼び、近くは「岩屋の外には頼光さん、続いて家来の四天王、酒呑童子はどんな顔、こわごわ覗いて震えている」とホームソングにまで唱われたように、幾世代にもわたってあらゆる階層の人々に親しまれて来たものである。

さて、この伝説は約一千年前の源頼光（寛弘一〇三）が主人公で、その郎等たる四天王達五人を従えて、大江山へ酒呑童子という鬼を退治したという怪物退治談であり、武人伝説である。それが前に述べたように、謡曲にお伽草子（江戸時代に作られて一般に知られるに至ったのであるが、それ以前に先行の「大江山絵詞」または「伊吹山絵巻」と題する一群の作品があったようである。その内容は、鬼の栖家により大江山系と伊吹山系とに分けることができ、しかもそれぞれ

にいくつかの異本を生じて、今日に諸本を伝えている。ここに掲出の本学図書館所蔵『酒伝童子絵巻』は、内容から見て、大江山系の一異本である。

では、どういう点において、異本であるかという点、（異本とは二つ、もしくは二つ以上の本との相対的關係において言えるのだが、）例えば、同一系統たるお伽草子の「酒呑童子」と比較して見ると叙述の上かなりの相違が見られるからである。さらには、かかる怪物退治には、武勇によることが必要であるのはい

を感じ、是等の次第、皆聖教に説所なり……明王の感徳いとあらはれましますゆへに、薩埵の化現と申あへるも理也、云々

かくして、酒頭童子伝説は、「かの頼光の御手柄、ためし少き弓取とて、上人より下万民に至るまで、感ぜぬ者はなかりけり」という結末の文句によつても、源氏の嫡流たる頼光を賞讃することを主眼としたものではないかと考えられているけれども、本書によつて、この伝説は、神明の加護が、神仏の化現という

## 『酒頭童子絵巻』

### 解説（表紙図版参看）

うまでもないが、そうした勇猛奮闘の具体的な描写はほとんどなく、主として、神仏の加護とか冥助によることが説かれているのが、当時の作品の通例となっている。この作品もそれに漏れないが、両本共通の本筋が一応終つてあとに、本書には次の文章が附加されている。

或人申けるは、一条院は弥勒の化現にてましまし、頼光は又毘沙門の化身なり、……酒伝童子は六天の魔王なり、明君の威法をおとしめ、仏法の為に雙敵となりて、鬼神の寿命

形で、悪魔を滅したという、本地垂迹思想の所産であることも見のがすことができない。

掲出本は、卷子本で全五巻から成り、表紙には「酒伝童子絵（一五）」（但し巻二には題簽欠）とある。紙高三二センチ。各巻には大柄な美しい奈良絵が四図乃至七図、合計二十六図が挿入されている。書写年代は、近世初期、大体寛永年間頃（一六四一—一六五三）かと思われる。

この伝説の主人公たる頼光は、源満仲の長子として生まれ、清和源氏の直系で

あり、摂津多田の地を伝領した。その人物・生涯については、鮎沢寿氏著『源頼光』（人物叢書150）に詳細に解明されている。京阪神急行の宝塚線能勢口駅から、能勢電鉄に乗り換えて、多田駅下車。約一・五キロほど西へ行くと、多田神社がある。その辺りが多田院の跡で、その神社の祭神は源満仲であり、配神として頼光・頼信・頼義・義家が祀られている。頼光は満仲の武士団の一人であり、私的な従者たる郎等を従えていたようである。その四天王については、『今昔物語集』巻第二十八の第二話や『古今著聞集』巻九武勇第二話に、綱・公時、定道（貞道）・季武の名が見える。そうしたことから、事実上は頼光に酒頭童子退治はなかつたとしても、頼光をめぐる説話に中国の『白猿伝』（『説郛』所収。梁の武帝の時、歐陽紇が山中で妻を鬼に奪われたので、これを取り返そうと鬼の栖家におもむき、そこに捕えられている女達とはかりごとをめぐらして、美酒で鬼を酔わせて縛り、退治した話と構想が似ている）が取り入れられ、また素戔鳴尊の大蛇退治伝説などが加味され、そうしたものが集成されて、そこに酒頭童子退治伝説の構想が成立したのではないだろうか、と見られているが、まだ定説とは言えないようである。なお、酒頭童子の表記は、伝本によつて様々で、「頭」を「呑」や「伝」としていて、一定しない。



## 指定図書制度について

指定図書制度は、最初米国において発達した大学教育における特色ある制度であり、我国においても戦後の新制大学の発足にあたりその単位制の理念の中にとり入れられ、各大学ともその実施に向いつつある。本学においては、昭和二十四年度に図書館近代化の一環として試みられ、何年かで中絶したが、昭和三十九年度より再発足、その完全実施のため全専任教員に指定を依頼し、従来の蔵書からは別置して、閲覧奉仕体制の必要欠くべからざる部門として、積極的な利用に必ず努力しているが必ずしも周知徹底していないように思われる。

そこで「指定図書制度とは何か」との問題について文部省の資料を通して見てみると、大学学術局の「大学図書館の改善について」では、

指定図書制度とは、指定図書（教官の講義等に直接関連して学生が必読すべきものとして指定される「教官指定学生専用図書」で試験等の際には多くの場合その内容も問題の中に含まれるものをいう）を附属図書館に別置し、講義等の進展に応じて利用させる制度であって、複本を備え、新制大学の単位制の理念を生かし自学自習に資するものである。とあり、同じく大学学術局情報図書館課

の「昭和四十一年度指定図書実施要領」の定義の条によると、指定図書と指定図書制度を一応区別し、指定図書とは

教官が講義等に直接関連して、学生に必読すべきものとして指定し多くの場合、試験・演習等の際にはその内容も出題の対象となる「教官指定学生図書」をいう。指定図書には、次のものは含まれない。

- ①教科書（学生が購入するもの）
- ②参考書（指定図書よりも広い意味で参照利用するもので、講義とは直接には関連がなく、学生に必読を課するものではない）
- ③参考図書（目録、便覧、辞典、事典、地図等）

とあり、指定図書制度については、教官自らの講義内容に従って、開講に先立ち指定した指定図書を、附属図書館に備付けることを要求し、附属図書館では、一般図書と区別して教官別等により書架に配列し学生に利用させる。また教官は指定図書の内容を勘案しながら講義等を行うものである。この制度は、教官・学生および附属図書館の一体的関連を樹立して運営する制度であり、学生数に応じて同一図書を多数備付ける複本制が必須の条件である。

と規定している。

要するに指定図書制度とは、教官が講義等に直接関連のある図書を必読すべきものとして、学生と図書館に指定し、試験に際してはその内容が問題の中にも含まれ、図書館側もこれに応じて指定図書の重複購入をはかるとともに、その利用については、他の図書とはその取扱いを別にし、それらの諸方策を通じて「教育と図書館との一体的関係を樹立して運営する制度」ということができる。

因みに「大学図書館の改善について」に言及された「新制大学の単位制の理念を生かし自学自習に資する」とは、大学設置基準第二十六条の「一、講義については、教室内における一時間の講義に対して教室外における二時間の準備のための学修を必要とするものとし、……二、演習については、教室内における二時間の演習に対して教室外における一時間の準備のための学修を必要とするものとし」とあるのを受けた言葉である。何卒、指定図書制度の意義に御理解を賜り積極的な利用と図書館側への協力を冀うものである。（山内記）

（注）図書館ニュース三号に「指定図書について」と題する紹介があるので併せて参照せられたい。

## 図書館関係諸会議

### （Ⅰ）学内 （Ⅱ）学外

#### （Ⅰ）図書館合同委員会

44. 6. 16（月） 来賓室

議 題：1）図書選択委員会のあり方について

2）その他

#### （Ⅱ）私立大学図書館協会（第30回総大会）

44. 7. 14（月）～16（水）

開催場所：立命館大学

出席者：館長，分館長，山内，饗場

昭和44年度 私立短大図書館担当者研修会

44. 7. 22（火）～25（金）

開催場所：萩市萩国際観光ホテル

出席者：高橋，池田

目録カードの複製は、従来まで図書館でタイプ原紙に直接目録を作り、クリンター（日本データファイル）を使用して印刷複製するという方法をとっていました。

しかし、和書の場合普通のタイプでは、広範囲の図書を整理するのには、ない活字が多く、予備活字ケースを何台も備えなければならないのです。

そこで目録カードの複製は、印刷所に頼んで貰うという方法（外注）に変更しました。昭和四十二年十月から試験的に各印刷所に注文してやって来ましたが、本格的には、昭和四十三年三月から一つの印刷所に定め、コンスタントに運ばれています。印刷発注に関しては、次のような点があげられます。

#### (1) 方法

a. 和書の場合は、原稿用紙に書き目録を作成したものを渡し、原紙にタイプし、カードに印刷して貰う方法。原稿用紙は、J L A のカード印刷用原紙を参考に書きやすい簡単な用紙を（半紙の大きさ）作り使用している為、原稿通りのものがタイプされ印刷されて来る。

b. 洋書の場合は、従来通り自館でタイプ原紙に直接目録を作成したものを渡し印刷だけして貰う。

#### (2) 条件

a. 価格は原紙一枚を一件として和書六十八円、洋書十八円。

b. 原紙一枚から二十枚まで複製する、二十枚を越えた場合は別に一件とする。（自館は平均十枚印刷する）

c. 原稿用紙（和書の場合）と原紙は印刷所が持つ。

d. 責任校正である。

e. 白無地カードは必要枚数だけまとめて図書館が渡す。枚数は原稿用紙、原紙の端に記入している。

f. タイプのミスカードは印刷所が負担する、印刷のロスは千枚で二十枚まで認める。

g. 仕上り日数は、原則として、和書、原稿百枚で五日間、洋書、原紙を何枚出しても三日間である。（日曜祭日は除くが急ぐ場合は早いこともある）

h. タイピストは固定して貰っている。和書の目録形式を憶えて貰う為。

i. 納品日は原則として週二回（月曜、木曜日）に定める。納品の時に次の分を

## 目録カードの外注について

### 倉岡みち

持ち帰る。

以上は印刷所との話し合いで決めました。

このようにやって来ますと、カードの仕上りがきれいで見やすい為利用者が検索しやすいことや、増加目録を作成する時にこのカードを、そのまま使用できること、自館印刷よりロスカードが少なくて済むことなどがあります。まだ問題点は残されていますが今後は、目録係に図書が流れ外注してから納品までの日数を出来るだけ縮めて行きたいと考えます。特に教職員、学生から早く利用したいと要求のあった図書、指定図書、学生希望で購入した図書は優先的に整理しており、間に合わない場合に限り自館で整理を行なっています。印刷所もこの仕事に従事するのが未経験だった為、活字がまだ完全に揃っていないことや、ない字は当用漢字で補ったりしていることも改めて行きたい点です。氏名の文字は勝手に変える訳にいかないので出来るだけ記載通りの活字を使うように頼んでいます。序々に完全なものにして行きたいと思っています。また図書館としても外注に頼ることを考えています。

外注することによつて機械的な仕事が、全くなかったという訳ではないのですが、いかに早く図書を整理し利用に供するか、複雑な図書整理の簡素化の一つとして大きな役割を果していると思います。少なくとも以前よりは図書館員としての本来の整理業務に従事できるようになったのではないかと考えています。

図書館では一日も早く利用者の手もとに図書を、お届け出来るように努めています。まだ不十分かと思いますが、お気付きの点は係までお知らせくだされば幸いです。（目録係）

\* 九月から急ぎの図書は、仮カードを入れて、先に流すようにしている。



## 図書館利用に関するアンケートの結果について（報告）

本年月末、図書館より専任教員（含助手）にご依頼申上げましたアンケートがこの度集計を見ましたのでご報告致します。

今回アンケート調査をご依頼致しましたのは、図書館運営の諸問題について、図書館運営委員会にお送り致しました所、アンケート調査すべきとの意見があり、その内容については、図書館学専門の委員と図書館側とが協議して決定すべきものと、決議されたその結果にもとづいて行ないました。ご依頼の総数は243通、内、96通の解答をいただきました。

なお、調査結果は図書館運営改善のための資料と致したく存じております。

ご回答下さいました先生方に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご協力の程、お願い致します。

~~~~~  
参考：アンケートの内容

該当事項に○印又は理由をご記入下さい。

問Ⅰ 本学図書館を利用しておられますか。

(1) している 答A(週 回)・(月 回)・(年 回)

(2) していない A 資料がない B 座席がない

C その他( )

問Ⅱ 本学図書館の図書資料を研究上必要としたとき、どの程度みたされたでしょうか。

答 A 30 % 以下 B 30 % 以上 C 70 % 以上

問Ⅲ 本学図書館を利用し、研究上必要とする図書資料がなかった場合どのようにしておられますか。

答 (1) 図書館に購入要求をする。

A 購入された B 購入されない

(2) 他館を利用する。他館を利用する場合の方法

A 図書館の紹介 B 知人の紹介

C その他( )

(3) 自費で購入する。自費で購入せざるを得なかった理由

A 購入方法が分らなかった

B 図書予算がなかった C その他( )

(4) その他の方法で入手する

入手方法をご記入下さい( )

問Ⅳ 他館を利用する場合、本学図書館と国立国会図書館との相互貸借制度を利用しておられますか。

答 利用している 利用していない

## 図書館利用に関するアンケート集計表

(昭和44年 8月20日 集計)

Ⅰ. 本学図書館を利用しておられますか。

|           |    |
|-----------|----|
| 答 1. している | 69 |
| A. 週1回    | 10 |
| 週2回       | 1  |
| 週3回       | 2  |
| 週1回か2回    | 1  |
| 週2回か3回    | 2  |
| B. 月1回    | 15 |
| 月2回       | 10 |
| 月3回       | 2  |
| 月4回       | 1  |
| 月5回       | 1  |
| 月1回か2回    | 2  |
| 月1回か3回    | 1  |
| C. 年2回    | 3  |
| 年3回       | 4  |
| 年4回       | 2  |
| 年5回       | 3  |
| 年6回       | 1  |
| 年10回      | 3  |
| 年数回       | 1  |

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 年1回か2回                     | 1  |
| 不 定                        | 2  |
| なお「している」が、A, B, C欄に記載なきもの  | 1  |
| 2. していない                   | 27 |
| A. 資料がない                   | 12 |
| B. 座席がない                   | 1  |
| C. その他                     |    |
| 1) 環境が悪い                   | 1  |
| 2) 行きにくい                   | 1  |
| 3) 時間がない                   | 1  |
| 4) 研究室に備えてもらえないので          | 1  |
| 5) 理由はない                   | 2  |
| 6) 工学部の授業で週1回のため           | 1  |
| 7) 大学院研究室を利用する             | 1  |
| 8) 研究室の図書を利用する             | 1  |
| なお「していない」が、A, B, C欄に記載なきもの | 5  |

Ⅱ. 本学図書館の図書資料を研究上必要としたとき、どの程度みたされたでしょうか。

答 A. 30 % 以下 43



|                                                   |    |                                                             |    |
|---------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------|----|
| B. 30 % 以上                                        | 32 | 7) 4,000～5,000 円 以下のもの及び<br>和書は原則として自費で購入する                 | 1  |
| C. 70 % 以上                                        | 7  | 8) 図書にメモやアンダーライン記入<br>のため                                   | 1  |
| その他, 70 % 前後                                      | 1  | 9) 自分の所有の必要上                                                | 4  |
| 回答なし                                              | 13 | 「C. その他」の内, 理由記載なきもの                                        | 9  |
| Ⅲ. 本学図書館を利用し研究上必要とする図書資料がな<br>かった場合どのようにしておられますか。 |    |                                                             |    |
| 答 1. 図書館に購入要求をする                                  |    |                                                             |    |
| A. 購入された                                          | 31 | 「自費で購入する」が A, B, C の欄に<br>記載なきもの                            | 13 |
| B. 購入されない                                         | 6  | 回答なし                                                        | 16 |
| その他, 両方の場合あり                                      | 5  | 4. その他の方法で入手する。入手方法を<br>ご記入下さい。                             |    |
| なお「購入要求をするが」A, B 欄に<br>記載なきもの                     | 1  | 1) 学会, 大学の知人に依頼する                                           | 1  |
| 回答なし                                              | 53 | 2) 他大学, 知人より借用                                              | 5  |
| 2. 他館を利用する。他館を利用する場合の方法                           |    | 3) 古本屋, 指定の書店                                               | 2  |
| A. 図書館の紹介                                         | 3  | 4) 直接発注する                                                   | 1  |
| B. 知人の紹介                                          | 12 | 5) 教授のあっせん                                                  | 1  |
| C. その他                                            |    | 6) 科学研究費, 総合研究費で購入                                          | 2  |
| 1) 資料の種類により色々の方法をとる                               | 1  | 7) 所有者より譲渡又は貸借                                              | 1  |
| 2) アメリカ文化センター, 他大学図書館<br>国会図書館を利用する               | 10 | 8) 1, 2, 3 を併用する                                            | 1  |
| 3) 自分で行く                                          | 5  | 回答なし                                                        | 82 |
| 4) 卒業生閲覧票を利用する                                    | 1  | Ⅳ. 他館を利用する場合, 本学図書館と国立国会図書館<br>との相互貸借制度を利用しておられますか。         |    |
| 「C. その他」の内, 理由不詳のもの                               | 13 | A. 利用している                                                   | 1  |
| なお「他館を利用する」が A, B, C 欄に<br>記載なきもの                 | 6  | B. 利用していない                                                  | 87 |
| 回答なし                                              | 45 | 回答なし                                                        | 8  |
| 3. 自費で購入する。自費で購入せざるを得<br>なかった理由                   |    | なお, 調査事項以外の希望意見として次の通り各々<br>ありました。                          |    |
| A. 購入方法が分らなかった                                    | 0  | 1. 集中方式は利用しにくいので各教授の研究室に<br>一括貸出をされたい。                      |    |
| B. 図書予算がなかった                                      | 19 | 2. 一般学生は余り利用せず研究者だけが利用する<br>図書は学部特に部屋を設けて管理する方法を<br>考慮されたい。 |    |
| C. その他                                            |    | 3. マイクロリーダーを備えてもらいたい。又, 専<br>門司書の養成に努められたい。                 |    |
| 1) 身近にない利用価値が低い                                   | 14 | 4. コピー料金の値下をしてもらいたい。                                        |    |
| 2) レジスターに時間がかかる                                   | 3  | 5. 洋書のための図書目録カードがほしい。                                       |    |
| 3) 専門的なため                                         | 7  |                                                             |    |
| 4) 研究室内においてないため                                   | 1  |                                                             |    |
| 5) 購入要求が面倒だから                                     | 1  |                                                             |    |
| 6) 購入をまっけておれない                                    | 7  |                                                             |    |

## アンケートを収録して

- (1) 図書予算の量的な不足への不満が顕著に見うけられた。これは, 自費で購入せざるをえなかった理由として, 図書予算がなかったとの回答が 19 件ある。
- (2) 図書館利用を阻む原因が図書館の施設・設備の劣悪さにあることが見うけられた。これは, 座席がない, 環境が悪い, 研究室に備えてもらえない, マイクロリーダーを備えてほしいなどの回答が各 1 件あり, 特に身近に図書がないと利用価値が低いとの回答が 14 件もあった。これらの回答は, 図書館が本の倉庫である現状からやむをえないが, 図書館が身近な場所であるよう読書施設を整えるべきであると思われた。これは今後の図書館の建築計画を考える上に重要な意味をもち快適な閲覧室やキャレルを多く設備すれば, 図書館観も変えていただけると思われる。

(3)以下は p.10 の下段に続く

## 図書館学を受講して

分館員 市村 雅子

文部大臣の委嘱により開設されている、東洋大学の図書館学講座の四十三年度夏期講習も、学生運動の真只中で、一時は開講されるか気遣われましたが、無事七月三日の開講式を迎え、約二ヶ月間に亘る講習が始まりました。司書、司書補コースの受講生、聴講生を合わせて、約四百二十名の生徒が毎日、午前十時から午後九時迄、限られた短い期間内に、図書館に関する、一通りの事を学ぼうと一生懸命でした。この講習では、図書館学の概論と初歩的な実技を学んだだけで、やはり講習の成果が発揮されるのは、実務に於て、授業（講習）の内容を如何に生かして行くかに係る訳で、何事にも言えるとは思いますが、図書館学を知ろうとすればするほど、その広さと深さを考えさせられ、底なしの沼を見る様な思いでした。それと同時に、毎日の勉強が、如何に重要かが痛感させられます。ここで、利用者に最も関係の深い授業「閲覧と貸出」での文部省図書館短期大学教授、服部金太郎先生の話の一部を要略して述べますと、エリートコース志望の旧制高校生A君は、H公共図書館にて勉学中、彼なりの事情により、切り抜きをしてしまった。それを側で見ていたH氏が図書館員に通告した為、「切り抜き」が原因で退学、元来が優秀であったA君は独学で、現在では、ちょっとは名の知れた作家に成っては居るが、彼曰く「切り抜きをしてしまった為に自分の一生は大きく左右され、誠に残念である。」又、図書館に詳しく、書物の知識たるや、専門家より勝る程のG氏、彼は図書館の蔵書を持ち出しては、蔵書印の所を細工し、古本屋に売り捌いていたが、ついに獄中入りとなり、その時の彼の手記「図書の管理保全に関する参考意見」には、先生を始め、図書館関係者を驚かせる程、要領の得た立派なもので、現在のこの課題にも、その時の参考意見がもたらされてきているとの事でした。これ等は余談(?)ではあるが、この様な話を交えながら、大きく展開して行く授業は、とても楽しいものでした。授業の事は、さておき、日本の図書館界の中心である日本図書館協会が今だに飯小屋同然の状態であるのは、欧米等の方が優れているとは言うものの、その地位の低さには残念な事だと思えます。又、図書館に対する認識不足等、当図書館の場合に考えてみますと、PR活動を盛んにし奉仕をもっと徹底させなければと思います。一方、図書館学を受講して思う事、やりたい事は沢山ありますが、今の教室を改造しての図書館では、仲々、これ等の事を充分に反映させていけないのが現状です。一日でも早く、新図書館が建設される事を望みつつ、より多く、講習の成果が生かされる様、努力して行きたいと思えます。

## お知らせ

### 国立国会図書館との相互貸借制度について

国立国会図書館では、その利用規則第四章の規定により、大学・短期大学の図書館又は研究所・国公立の調査研究機関・公共図書館・地方議会図書館等に対して、図書館資料の貸出を行っています。現在その制度へ登録している大学図書館数は本学を含め、約三二〇館になっています。

本学関係者は、左記方法により国会図書館資料を利用出来ますから、希望者は第一閲覧室までお申し込み下さい。

（貸出図書の数）——一館につき同時に一〇点以内。

（貸出期間）——一ヶ月

（貸出の手續）——図書貸出申込票・四枚に所要事項を記入し、本館長の委任状を添えて申し込む。

（用紙は閲覧係にあります）

（国会図書館受付時間）

○平日・午前一〇時～一時五〇分

午後一時～四時

○土曜・午前一〇時～一時五〇分

○月末休館

なお、他大学（私立、国公立）図書館とも相互貸借を行っておりますので、御利用下さい。詳細については、閲覧係にお尋ね下さい。

前頁よりの続き

- (3) 他の図書館を利用するにつき、相互貸借制度のあるのを知らない方が多いように見うけられた。これは、他館を利用するのに図書館の紹介によるとの回答が僅か3件であり、国立国会図書館との相互貸借制度を利用していないとの回答が87件も見られる。
- (4) 資料を求める場合、知人の紹介によるものが12件あり非常に多い。図書館の参考室には各館の蔵書目録も備えつけられているので、それで確認した上で、他館を利用すれば、更に広範囲に探すこともでき、確実性もあるように思われた。
- (5) 図書館の広報活動の不足が見うけられた。このことは特に他館との相互貸借制度のあることを御存じない方が多いようで、この機会に紙面をかりて私大はもとより、国公立大学図書館、国立国会図書館との相互貸借制度を利用することをおすすめしたい。